

第23篇 資本主義的蓄積の一般的法則

第3節 相対的過剰人口または産業予備軍の累進的生産

① p205-207 (過剰な労働者人口の生産)

・ 資本の蓄積は…可変的構成部分を犠牲にして不変的構成部分をたえず増加させる。 -始 2L

・ 有機的組成の変化は…資本蓄積、社会的富の増大よりはるかに急速に進ずる。 -後 3L

p206 始 1- (というのは) 蓄積・増大は…「集中」「技術的変革」により「比率が変化」

8L (それ=可変資本部分は) 総資本の増大に比例して増加するのではなく、累進的に減少する。

C:V=1;1, 2:1, 3:1 → 1;1 1:1/2 1:1/3 ...

(Q??後 6L) -与えられた技術的基礎の上における単なる生産拡張として蓄積が作用する
中間休止期は、短縮される。

・ p207-1L (可変資本部分の相対的減少は) 過剰な労働者人口を生産する

② p207-208 (資本主義に特有な人口法則)

・ 始 7 L (この変化は) 資本の絶対的増加ではなくて、単なる集積 (or 集中) の結果としても起こる。

・ 後 5L (この可変資本・労働者数の増加は) 激しい動揺、一時的な過剰人口生産へ。

(牽引と反発) 労働者を反発=排水溝に吸収し難い形態…

・ P208 かくして労働者人口は、それ自身によって生産される資本蓄積とともに、それ自身の相対的過剰化の手段を、ますます大量に生産する。

これが資本主義的生産様式に特有な人口法則なのである。

(Q??) 特殊な歴史的生産様式は、それぞれ特殊な歴史的な人口法則を持つ—?

③ P210-213 (10年ごとの周期的景気循環)

・ 後 4L-この過剰人口は…資本主義的蓄積の槓杆となる、資本主義的生産様式の一存在条件となる、絶対的に資本に属する、自在に動かさうる産業予備軍を形成する。

・ p211 始 1L- (それは) 価値増殖のために、つねに利用しうる 人間材料を、現実の人口増加の制限から独立に作り出す。

・ 7L- (景気循環) 蓄積の進展、社会的富の大量が市場を拡大し、大量の人間 (を必要として)、過剰人口がこれを供給する。

後 6L → 活況、繁忙、恐慌、沈滞… 10年ごとの循環は、産業予備軍・過剰人口の不断の形成、吸収、再形成…

・ 産業循環の変転する諸時期は、過剰人口を補充し、そして強力な再生産動因となる。

・ p212 (恐慌?) 資本の蓄積の進展—搾取される労働者人口の自然的限度—この限度は「後に述べるような協力手段によってのみ除去される」

・ 経済学の皮相浅薄さは、産業循環の時期転換の単なる徴候にすぎない「信用の膨張と収縮」を、その原因と考えることに示される。

・ 後 4L (この周期的・形態が確立されれば) 経済学者も、相対的過剰人口を「近代産業の生活条件として理解する」

④ p213-215 (マルサス)

・ p214 マルサスは過剰人口を、近代産業の必然となし、…追加労働者は 16 年から 18 年たつまでは不可能だが、…資本の転化はそれよりも急速だーと言っている。

→資本家(工場主)は、…我々は諸君(労働者)のために努力しているが、諸君は「諸君が諸君の数を、生活手段に適合させよ」

⑤ p215-217(可変資本の増減と労働者の増減)

・可変資本の増減に就業労働者の増減は想定された「が…対応しない」

・ p216 可変資本の増大は、労働の増加の指標となるが、就業労働者の増加の指標とはならない(≠労働価格・労働賃金の増減)。

⑥ p219-221(経済学のドグマ)

・労働賃金の一般的運動は、「産業予備軍の膨張と収縮」とによって規制されている。

それは労働者人口の絶対数の運動によって規定されているのではない。

・後 6L(経済学のドグマ) = 資本蓄積の結果労働賃金が騰貴→労働市場が供給過多→労働賃金が下落→労働者人口が減少→資本が過剰になる。

・ p220(あるいはまた) 低賃金化・労働者の搾取が再び蓄積を促進し→労働者増を抑止→労働供給<労働需要→賃金が高騰。同じ事が繰り返される。

⑦ p221-224(資本の専制の確立)

・かの経済学者の仮説(ドグマ)は、労働賃金の一般的運動、あるいは労働者階級すなわち総労働力と社会的資本との関係を規制する諸法則を、労働者人口を特殊生産部面間に分配する諸方策と混同している。

・後 2L(彼が見ているものは)資本の欲望の変動に応じて、労働者人口が種々の資本投下部面に分配されるという「現象」にあるにすぎない。

・ p223 始 7L-(資本の専制)資本は双方の側で同時に作用する。資本の蓄積が一方では労働に対する需要を増すとすれば、それは他方で、労働者の「遊離化」によってその供給を増す。…失業者の圧力は、就業者により多くの労働の流動化を強制し、ある程度まで、労働の供給を労働者の供給から独立させる。この基礎の上における労働の需要供給の法則の運動は、資本の専制を完成する。

・労働者が…ますます不安定になるのはどうしてか、という秘密を察知するや否や、…労働組合等によって就業者と失業者との計画的協力を組織して…資本とその阿諛者である経済学者は…悲鳴を上げる。

・ p224 植民地のようなところでは…強制手段(暴力的に)その作用を押しとどめようとする。